

日本語非母語話者の子ども用文字表記教材に見られる 語彙選択の問題

安藤 淑子

The Problem of the Vocabulary Selection in the KANA Exercise Book
for Non-native Japanese Children:

ANDO Yoshiko

Abstract

There is a different purpose of study using the KANA exercise book for non-native Japanese children compared to that of native Japanese children.

This is because the former also has the aim of learning Japanese vocabulary. The biggest problem is that the vocabulary adapted by the KANA exercise book for non-native Japanese children does not provide enough support regarding the development of the children's words. It is therefore necessary to develop the KANA exercise book corresponding to the children of various age groups.

キーワード：文字表記教材 語彙 子ども 年齢 日本語教育

Key words : kana exercise book, vocabulary, children, age, teaching Japanese

1. はじめに

成人学習者を主な対象としていた日本語教材の中に、近年、低年齢の学習者向けの教材（以下「子ども用教材」と呼ぶ）が見られるようになった。だが、教材の種類はまだ多いとは言えない。

本稿で分析の対象とした文字表記学習用の教材も、市販のものはまだ数が限られている。教育の現場では、日本語母語話者用の教材を援用したり、成人学習者向けの教材で対応しているケースも見られる。

一方日本語母語話者用の教材は、入手が容易で種類も豊富だが、非母語話者に対して用いるためにはいくつかの問題がある。基本的に日本語母語話者用の教材は、母語話者の子どもがすでに音声言語として獲得した相当数の語彙を背景としており、さらには日本特有の文化や風土に関連した語彙選択が見られるからである（安藤 2008）。

数の少ない非母語話者の子ども用教材の問題は、教材が言語の発達過程にある子どものそれぞれの年齢に完全には対応できていないという点にある。

例えば、波多野ファミリースクールの『日本語学級1』は、学習レベルを小・中学生水準に設定しているが、国立国語研究所（1984）によれば、日本語母語話者児童の理解語彙は、小学校1年生で5661語であるのに対し小学校6年では25668語と約4.5倍の増加が見られ、中学3年には約4万語に達するという。

発達過程にある子どもは、年齢によって語彙の差が質量ともに大きく、幅広い年齢層を対象に特定の「水準」を設定することは現実には極めて困難である。

本稿で調査を行なった日本語非母語話者の子ども用教材のうち2種類は年齢の設定範囲が広い。

山梨県立大学 国際政策学部 国際コミュニケーション学科

Department of International Studies and Communications, Faculty of Glocal Policy Management and Communications, Yamanashi Prefectural University

一方で他の教材は対象年齢自体が明記されていない。これは日本語母語話者の子ども用教材が、対象年齢を細かく設定していることと対照的である。日本語母語話者の子どもの文字学習の時期は、概ね小学校就学前後であるのに対し、日本語非母語話者の子どもたちの文字学習の時期は一定ではなく、このことが対象年齢を設定しにくい一因である。

以下本稿では、日本語非母語話者の子ども用文字表記教材における語彙選択について、日本語母語話者用の教材と比較しつつ検証する。

2. ひらがな 50 音カルタ

前述したように日本語母語話者の子どもの場合、すでに音声言語で獲得した語彙を文字に置き換える作業が、文字表記学習の主たる目的である。したがって、教材に採用される語彙の幅は広く、子

どもの日常生活にとって身近であり興味・関心を引きやすい語彙（安藤 2008）の選択が可能である。

一方で、日本語非母語話者の子どもにとって、日本語の文字表記の学習は、同時に日本語の語彙学習であり、言葉の意味の学習でもある。したがって、教材作成者の語彙選択の範囲は限定的になり、また母語話者用教材とは異なる学習目的に適合したものでなければならない。

表1は、子ども用のひらがなカルタに採用された語彙を示している。表中のA～Cは日本語母語話者用のカルタである。こうした簡便な教材の語彙選択にも、母語話者用教材との差が見出される。

また、日本語母語話者用カルタにはひらがなに対応する語彙に比較的共通した傾向が見られる（表中ゴシック体）が、この傾向は非母語話者用教材とは一致していない。

表1 非母語話者・母語話者子ども用ひらがなカルタに見られる語彙

	非母語話者	A	B	C		非母語話者	A	B	C
あ	あさ	あかちゃん	あり	あさがお	ね	ねんど	ねこ	ねこ	ねこ
い	いす	いちご	いぬ	いぬ	の	のり	のこぎり	のり	のりもの
う	うみ	うし	うま	うし	は	はな(花)	はみがき	はさみ	はなび
え	えんぴつ	えほん	えんぴつ	えび	ひ	ひこうき	ひこうき	ひこうき	ひまわり
お	おかし	おりがみ	おに	おに	ふ	ふえ	ふね	ふね	ふうせん
か	かさ	かえる	かさ	かさ	へ	へや	へび	へび	へび
き	き	きりん	きつね	きりん	ほ	ほし	ほん	ほん	ほたる
く	くすり	くるま	くつ	くじゃく	ま	まど	まくら	まくら	まじょ
け	けしゴム	けいと	けむし	けいと	み	みず	みかん	みかん	みみずく
こ	こくばん	こども	こま	こいのぼり	む	むしとり	むしば	むしめがね	むし
さ	さかな	さくら	さる	さくらんぼ	め	めがね	めがね	めがね	めだか
し	しんぶん	しまうま	しんごう	しまうま	も	もも	もち	もも	もも
す	すいとう	すいか	すいか	すいか	や	やま	やさい	やま	やさい
せ	せいふく	せんたく	せみ	せみ	ゆ	ゆき	ゆきだるま	ゆき	ゆきだるま
そ	そら	そり	そり	そり	よ	よる	ようちえん	ようふく	ようふく
た	たいこ	たんぼぼ	たまご	たんぼぼ	ら	らくがき	らくだ	らくだ	らっぱ
ち	ちきゅう	ちりとり	ちず	はち	り	すべりだい	りす	りんご	りんご
つ	つくえ	つくえ	つき	つばめ	る	くるま	るすばん	つる	かえる
て	てつぼう	てるてるぼうず	てがみ	てんとうむし	れ	れいぞうこ	れいぞうこ	れいぞうこ	れんげそう
と	とびばこ	とけい	とけい	とら	ろ	ろうそく	ろうそく	ろうそく	ろば
な	なわとび	なみ	なす	ながぐつ	わ	かわ	わなげ	わに	わに
に	にっき	にんぎょう	にわとり	にんじん	を	を	ほんをよむ	りんごをたべる	いちごをたべる
ぬ	ぬいぐるみ	ぬりえ	ぬりえ	ぬいぐるみ	ん	しんかんせん	でんでんむし	にんじん	しんかんせん

3. 文字教材に選択された語彙

3-1 語彙の領域

日本語を母語としない子どもに文字を教える時、日本語の単語に対する知識がないのではなく、単語の指す事物そのものが理解できないというような場合がある。成人のような語彙ストックがまだない低年齢の児童の場合、翻訳や類推が可能かどうかということ以上に、母語において当該の単語（あるいはそれに類する単語）が習得²¹⁾済みか否かが問題になる。

本稿で調査に用いた日本語非母語話者向けの子ども用文字語彙教材は、以下の4種である。

教材名	語彙数 (名詞)	語彙数 (名詞以外)
A:『日本語学級1』初級必修の語彙と文字	217語	31語
B:『ひろこさんのたのしいほんご1』ひらがな・かたかな・かんじれんしゅうちょう	89語	なし
C:『日本語の教え方 スーパーキット3』学習者用練習帳	101語	2語
D:『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE I』KANA WORKBOOK	129語	6語

語彙はひらがなの文字練習用に採用されたものを取り上げた。教材の語彙総数は536語、異なり語数は372語である。教材中、対象学習者を明示しているのはA（小～中学生）とD（中～高校生）であった。A～Dの語彙の大半は名詞であるため、分析対象には名詞語彙を用いている。

4種の教材の中から3種類以上の教材に共通して見られた語彙（48語）を表2に示す。表中の頻度は、共通して見られた教材の数を指している。なお、2種以上の教材に共通して見られた語彙は104語であった（資料参照）。

安藤（2008）で取り上げた日本語母語話者用教材の出現頻度の高い語彙（頻度3以上）の年齢・領域別グラフに、非母語話者用の日本語教材の領域割合を並べて比較したものが図1である。

日本語母語話者用教材で割合が多いのは「生物」（動物、昆虫、鳥などの名前）に関わる領域であり、次に日用品（家具、衣類など）、「食物」などである。

日本語非母語話者用の教材（表中「日本語教材」）で最も割合が高いのは、「その他」に分類される語彙であるがここには、親族名称、学校関連語彙、場所名詞などが含まれる。

表2 日本語非母語話者子ども用教材4種中3種以上に共通して見られた語彙

No.		頻度	No.		頻度	No.		頻度
1	いす	4	17	おかあさん	3	33	しお	3
2	いぬ	4	18	おじいさん	3	34	しっぽ	3
3	かさ	4	19	おちゃ	3	35	じてんしゃ	3
4	きっぷ	4	20	おとうさん	3	36	すいか	3
5	くつ	4	21	おにいさん	3	37	ぞう	3
6	せんせい	4	22	おねえさん	3	38	つくえ	3
7	ねこ	4	23	かえる	3	39	て	3
8	はな(花)	4	24	かぎ	3	40	でんわ	3
9	びょういん	4	25	かに	3	41	とけい	3
10	ほん	4	26	かばん	3	42	はし(箸)	3
11	め	4	27	きって	3	43	べんきょう	3
12	やま	4	28	ぎゅうにゅう	3	44	まど	3
13	あし	3	29	くち	3	45	みず	3
14	いえ	3	30	ごはん	3	46	みみ	3
15	うま	3	31	さかな	3	47	むし	3
16	うみ	3	32	さら(おさら)	3	48	ゆき	3

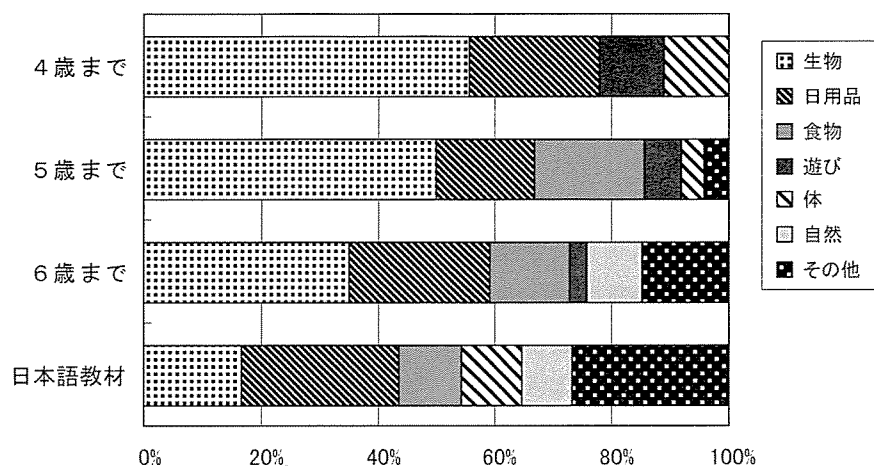


図1 領域別に見た語彙の割合

日本語非母語話者用の教材の特徴として、語種の多様性が挙げられる。前述の親族名称、学校関連語彙（教室、給食、数学、算数、先生、校庭など）、場所名詞（病院、駅、消防署、空港など）のほか、数詞、指示詞（ここ、これ、など）、人称代名詞（私、ぼく）、色彩名詞（白、黒など）、形状を表わす名詞（四角、三角など）や、「人」「表」「女」「家族」などの抽象度の高い名詞が含まれている。

語彙の提示に関しては、教材Aは体の部分の名称、Dは親族名称と学校関連語彙を体系的に示しており（表3）語彙学習の利便性を高めている。

3-2 上位概念語彙

語彙は、意味概念の上位のものと下位のものに分けることができる。日本語母語話者用教材では例えば、4歳児までの教材には「鳥」「花」「虫」「魚」が見られ、6歳児まで用の教材には、「野菜」「果物」などの語が付加される。

上位概念・下位概念というような語彙のカテゴリー化は、獲得された語彙群を同じ種類の語彙グループに分類する作業と並行して進み、6歳ごろまでにはほぼ枠組みが完成されるという（Markman, 1989）。

一方、日本語非母語話者向け子ども用教材に見られた上位概念語は、次のようなものであった。

「花」、「家」、「魚」、「家族」、「楽器」、「虫」、「木」、「果物」、「鳥」、「人」、「食べ物」

一般的な日本語学習について言えば、日本語の個別名称に関する知識は限られており、記憶の容量にも限度があるため、学習の初期段階では語彙グループを代表する上位概念語を学ぶ方が効率が良いと言えるだろう。また、上位概念語の方が多くの場合普遍性を持っているため、母語による翻訳の可能性が高い。

しかし学習者の年齢が低い場合、上位概念語は必ずしも母語における既習語彙ではない場合があ

表3 非母語話者用教材に見られる関連語彙の提示

教材	語彙
A	頭、お尻、顔、背中、爪、手、歯、ひじ、ひざ、へそ、耳、胸、目、腰、毛
D	おかあさん、おじいさん、おとうさん、おばあさん、おじさん、おばさん、おねえさん、おにいさん、いもうと 英語、音楽、数学、体育、美術、歴史、日本語、勉強、そろばん、先生、宿題、辞書、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、日曜日

り、この点は十分留意する必要がある。

これに関連して、以下に示すのは、日本語母語話者児童に対する上位概念語（「範疇語」）の習得調査の結果である。

国立国語研究所（1981）は、「児童の概念形成過程における言語の役割と言語教育の効果」というテーマに基づき、日本人児童の範疇概念の発達を年齢別（小学校入学以降は学年別）に調査を行っている。

この調査は、14の「範疇語」から連想されるものを児童が自由に挙げるという方法によって行われた（「範疇語」とは、一定の語彙グループを代表する語のことであり、本稿で用いる上位概念語を指している）。

調査で用いられた「範疇語」は、①動物、②乗り物、③着る物、④道具、⑤植物、⑥家具、⑦履物、⑧花、⑨果物、⑩野菜、⑪魚、⑫鳥、⑬楽器、

⑭虫、である。

与えられた「範疇語」に対し、無回答の児童数を図2、図3に示した。

無回答者は年齢があがるにつれて減少し、多くの「範疇語」において6歳までにはほぼ無回答の状況が解消されている。

「範疇語」に対する無回答の原因を明確に示すことはできないが、「範疇語」に対して子どもが感じる「親しさ」には関連があるだろう。子どもの日常生活において、「楽器」「道具」「家具」などの語は、さほど使用頻度が高くないと推測される^{注2)}。

無回答者の解消が比較的早かった語彙群においては、図4のように、上位概念語の回答が個別の名称の回答を上回る語彙グループ（「魚」「鳥」）^{注3)}がある一方で、個別の名称が上位概念語に先行して大量に獲得される語彙グループ（「動物」「果物」

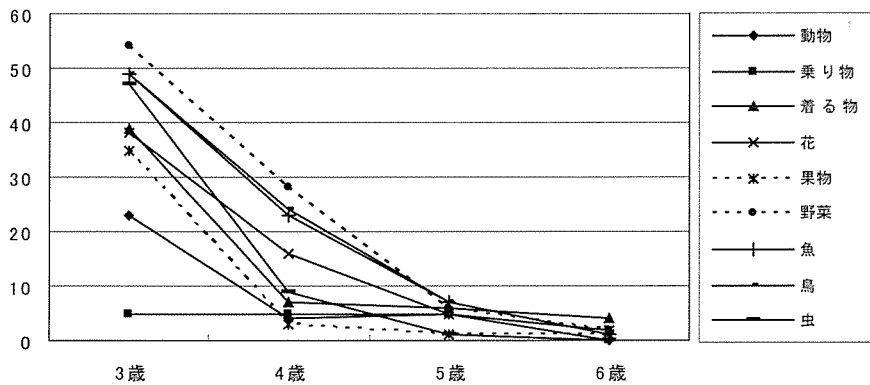


図2 「範疇語」に対する年齢別無回答者数(1)

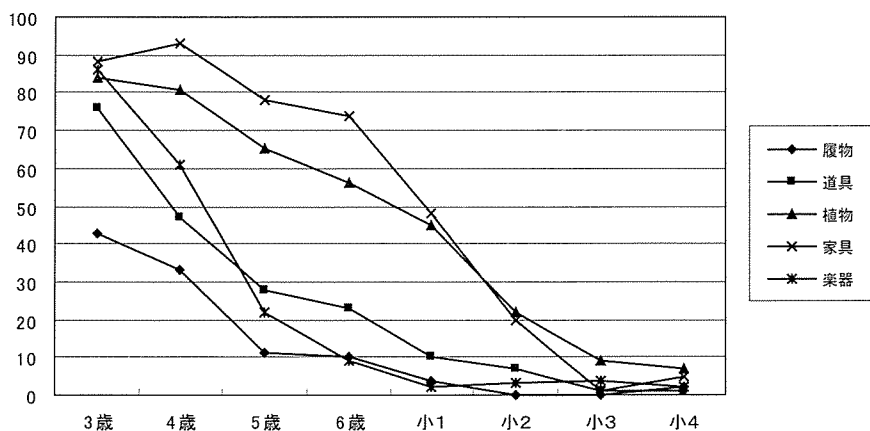


図3 「範疇語」に対する年齢別無回答者数(2)

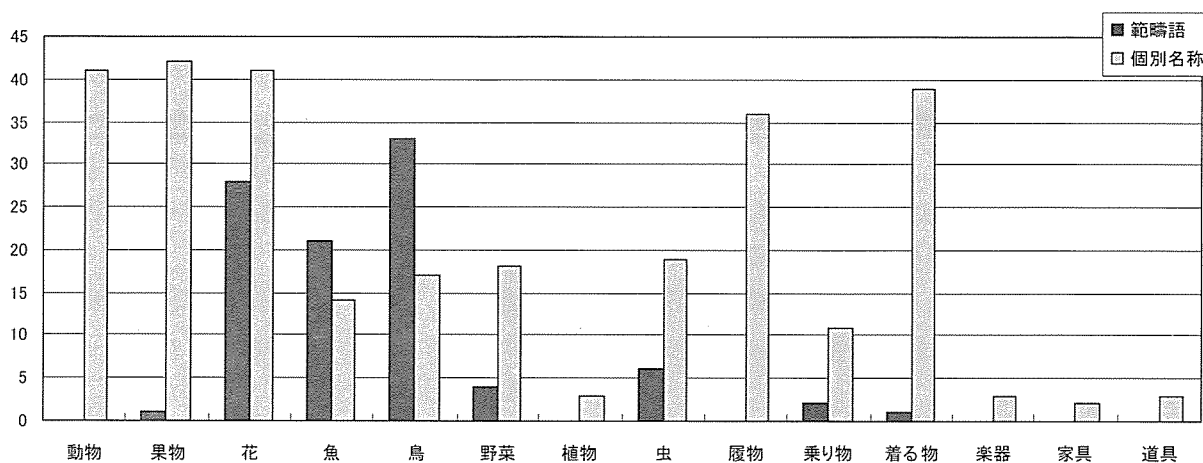


図4 3歳児の範疇語と最も回答の多かった個別名称における回答者数

など)がある。

上位概念語である「動物」という語は、母語話者の子ども用教材にはほとんど見られない。一方で、個別の名称はきわめて多い(図1参照)。動物に限らず多くの場合個別の名称は子どもの生育した風土・環境と密接に関連しており、母語で獲得された語彙が、異なる言語の習得過程において援用できない可能性がある^{注4)}。

4. まとめ

日本語を学ぶ子どもたちの文字表記学習の時期は、日本語母語話者の子どもたちのように一定ではない。しかし一方で、低年齢の子どもたちは語の発達過程にあり、母語において獲得される語彙数にも年齢によって大きな差が見られる。

したがって、年齢に応じた適切な語彙の提示が、日本語非母語話者の子ども用教材においても重要な課題であることは言うまでもないだろう。

なお、語彙選択に際しては、日本の学校への就学という学習目的が加わるため、この点も優先順位に反映されなければならない。

現在年齢別の日本語学習基礎語彙はまだ選定されておらず、「子ども用」という極めて広範囲な処理で行われている。

語彙の選択を含め、子ども用教材における課題を今後の教材開発に反映させたい。

注

- (1) ここで言う「習得」は、当該単語の種別の分類及び、上位・下位の意味階層の形成を意味している。獲得された語彙群は、各発達段階において児童に認識される一定の共通性によって分類・整理され、次第に意味概念のヒエラルキーを形成するようになる。
- (2) 図3において上位概念語無回答者数の解消が比較的遅かった「植物」「楽器」「道具」「家具」などは個別名称の種類も少ない。
- (3) 範疇語「鳥」に関しては4歳で、「魚」に関しては5歳で、範疇語の回答者数と個別名称の回答者数が逆転する。日本語母語話者の幼児は、まず「鳥」「魚」という総称である生き物全体を把握し、後に個別の名称を獲得することがわかる。これは、保護者が幼児に初めに与える「名付け」のレベルが、これらの語彙群においては基本的に上位概念語であることを意味している。
- (4) 内田(1990)は、各語彙グループの中に共通して見られる典型的語彙の存在を指摘している。例えば、「動物」という範疇語に対する回答には「象」「きりん」「ライオン」が、「果物」という範疇語に対する回答には「りんご」「みかん」「バナナ」、「花」には「チューリップ」「ひまわり」、「虫」には「とんぼ」「蝶々」などが共通して多く見られる。

一方で、英語母語話者向け子ども用教材の「動物」の領域で提示された語彙は、次のようなものであった。
goat, wolf, zebra, iguana, koala, crocodile, dog, flog, hoarse jaguar, kangaroo, lizard, mouse, rhino, snail, tiger, unicorn, walrus, yak, elephant, giraffe, fox, hamster, kitten, lion, octopus, puppy, rabbit, cat, dalmatian

参考文献

- (1) 安藤淑子 (2008) 「日本語非母語話者児童用文字教材開発のための語彙調査」『山梨国際研究 山梨県立大学国際政策学部紀要』山梨県立大学国際政策学部
- (2) 内田伸子 (1990) 「言語と人間」『新・児童心理学講座第6巻』内田伸子編 三水舎
- (3) 国立国語研究所 (1981) 『国立国語研究所報 69 幼児・児童の連想語彙表』東京書籍
- (4) 国立国語研究所 (1984) 『語彙の研究と教育 (上)』日本語教育指導参考書 12 大蔵省印刷局
- (5) Markman, E. A., 1989, Categorization and naming in children: Problems of induction, The MIT Press, London.

調査教材

- (1) 『日本語の教え方 スーパーキット3』文字カード アルク
- (2) 『ひらがな①』『ひらがな②』元林 (教材A)
- (3) 『くもん式のひらがなカード』くもん出版 (教材B)
- (4) 『くもんの書き方カード ひらがな』くもん出版 (教材C)
- (5) 『日本語学級1』初級必修の語彙と文字 凡人社
- (6) 『ひろこさんのたのしいにほんご1』ひらがな・かたかな・かんじれんしゅうちょう 凡人社
- (7) 『日本語の教え方 スーパーキット3』学習者用練習帳 アルク
- (8) 『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE I』KANA WORKBOOK 講談社インターナショナル
- (9) Piddy books, 2003, Sticker Activity ABC, St.Martin's Press, New York.
- (10) Dorling Kindersley, 2001, my first abc lift-the-flap board book, Dorling Kindersley, London.
- (11) C. Eric, 2007, Eric Carle's ABC, Grosset & Dunlap, New York.

【資料】

表 日本語非母語話者の子ども用教材4種中2種以上に共通して見られた語彙

No.	語彙	頻度	No.	語彙	頻度	No.	語彙	頻度
1	いす	4	36	すいか	3	71	くも(雲)	2
2	いぬ	4	37	ぞう	3	72	くろ	2
3	かさ	4	38	つくえ	3	73	ここ	2
4	きっぷ	4	39	て	3	74	さとう	2
5	くつ	4	40	でんわ	3	75	さる	2
6	せんせい	4	41	とけい	3	76	じゅうどう	2
7	ねこ	4	42	はし(箸)	3	77	しろ	2
8	はな(花)	4	43	べんきょう	3	78	すうがく	2
9	びょういん	4	44	まど	3	79	せっけん	2
10	ほん	4	45	みず	3	80	そこ	2
11	め	4	46	みみ	3	81	ち(血)	2
12	やま	4	47	むし	3	82	ちゅうしゃ(注射)	2
13	あし	3	48	ゆき	3	83	つの	2
14	いえ	3	49	あくしゅ	2	84	てがみ	2
15	うま	3	50	あり	2	85	でんしゃ	2
16	うみ	3	51	いけ	2	86	にわとり	2
17	おかあさん	3	52	いしゃ	2	87	にんぎょう	2
18	おじいさん	3	53	いもうと	2	88	は(歯)	2
19	おちゃ	3	54	うし	2	89	はっぱ	2
20	おとうさん	3	55	うち	2	90	はな(鼻)	2
21	おにいさん	3	56	えき	2	91	はれ	2
22	おねえさん	3	57	えんぴつ	2	92	ひこうき	2
23	かえる	3	58	おかし	2	93	ひゃく	2
24	かぎ	3	59	おばあさん	2	94	ふた	2
25	かに	3	60	かぜ(風)	2	95	ぶた	2
26	かばん	3	61	かぞく	2	96	ふで	2
27	きって	3	62	がっき	2	97	ふね	2
28	ぎゅうにゅう	3	63	がっこう	2	98	ぼうし	2
29	くち	3	64	かみ	2	99	ぼく	2
30	ごはん	3	65	かわ(川)	2	100	ほし	2
31	さかな	3	66	きゅうしょく	2	101	まと	2
32	さら(おさら)	3	67	きょうしつ	2	102	みかん	2
33	しお	3	68	く(9)	2	103	れいぞうこ	2
34	しっぽ	3	69	くうこう	2	104	ろっぴゃく	2
35	じてんしゃ	3	70	くし	2			